3 環境・緑化部会　循環型のまち・生ごみリサイクル

(1) 背景

様々な環境問題が地球規模で進んでおり、一人一人が地球の資源を大切にし、環境に負荷をかけず持続可能な生活をすることが求められています。その中で、第 1 歩の取り組みとして「ごみの減量」や「リサイクル」など区民の誰もができる身近なエコ活動を進めることが必要ではないかと考えました。特に、家庭から排出されるごみの 1/3 を占める生ごみは、紙類、プラスチック類などのように分別収集が進まず、普通ごみとして焼却処分されている状況です。生ごみの減量は、焼却にかかるエネルギーや CO_2 の削減、経費の削減ばかりでなく、ごみ集積所の美化などにもつながります。

生ごみは微生物が分解して堆肥となり、堆肥の入った土は活性化され、土壌菌がたくさんいる土で育った野菜は生命力をたくさん持っています。その野菜を食べて、また土に還してと生ごみの堆肥化は資源循環そのものであり、「循環型のまち」につながる大事な 1 歩です。

上記のことから、第 2 期区民会議でも「エコのまち麻生の推進・地産地消と生ごみリサイクル」というテーマで審議を重ね、麻生区では生ごみの堆肥化をする小学校や保育園、市民グループや自治会などでの取り組みも生まれ、区役所ロビーでの「生ごみリサイクル相談会」なども年 2 回開かれるようになりました。これを中断することなく継続発展させるべきと考え、第 3 期区民会議では本テーマについて調査・審議を進めました。

(2) 検討経過

① エコ啓発用パンフレット「エコのまち麻生」の作成・配布

【目的と経緯】

第 2 期区民会議で作成した環境教育データ集「麻生区エコカルテ」は小中学校に配布されたものの、説明不足と部数が少ないことなどから、有効活用されていない状況でした。そこで子供だけでなく広く区民に見てもらえるようにと抜粋編集の形で、エコ啓発用パンフレット「エコのまち麻生」を作成し、市民の取組紹介などを通して、「エコのまち麻生」のさらなる推進を図りました。

【作成・配布時期】

平成 23 年 3 月から作成、7 月から配布中

【配布先】

区内小・中学校、市民活動団体、区民など約 2,800 部配布

*あさおクールアース推進委員会の出前授業でも活用（P44 資料 3-7 参照）

② 川崎市のごみの現状、生ごみに関する取り組みなど勉強会の開催

平成 23 年 2 月 17 日　川崎市環境局減量推進課より説明（参加委員 6 名）

③ 横浜市へのヒアリング調査の実施

平成 23 年 6 月 14 日　横浜市役所資源循環局を訪問（参加委員 4 名）

同じ政令指定都市である人口の多い横浜市が平成 21 年～ 23 年に家庭系生ごみを回収しての実験（生ごみマイスター (生ごみ堆肥化) 事業やバイオガス化実証実験）をしていたので、ごみに対する考え方 (G30 から 3R 夢 (スリム)) と実験取り組みの成果や課題を聞き取り参考にしました。

④「麻生区生ごみアンケート」の実施 （P45 ～ 51 資料 3-9 参照）

【目的と経緯】

生ごみリサイクルの推進にはどんな取り組みが必要なのか、区民会議の審議や具体的な取り組みに活かす為、区内各家庭における生ごみリサイクルの実施状況を調査することにしました。

また、アンケートをお願いしたり、結果を報告することで、区民会議の存在を区民に広くアピールできると考え、第２期の出前フォーラムに替わるべく、こちらから区町会連合会役員会や各委員会、催し物などにアンケートのお願いに伺い、区民会議の活動を説明し、理解していただきました。

【実施概要】

実 施 日 : 平成 23 年 5 月 25 日～ 7 月 31 日

調査場所 : 町内会、区内スーパーマーケット、区役所ロビー、各委員会など

回収枚数 : 1,165 枚 （P44 資料 3-8 参照）

集計作業と中間結果発表 : 集計結果を考察し、フォーラムで報告。ホームページに掲載。

【結果概要】

生ごみの減量については、多くの方が必要性を感じ、水切りや買いすぎないなどなんらかの工夫をしていましたが、リサイクル（堆肥化）まで取り組んでいる方は、まだ少ない状況でした。また、堆肥を使う人、使える人が生ごみリサイクルをしている傾向があり、できた堆肥の使いみちがないからリサイクル（堆肥化）しないという方もかなりいました。

堆肥化しない理由は、面倒、場所、時間、費用、方法など個人個人様々でしたが、「やり方がわからない」、「やりたいけれど条件が」と言う方もいました。そこで、生ごみリサイクルの普及には適切な広報と堆肥の有効活用が重要と考え、以下⑤⑥の取り組みを試行し提言にまとめました。尚、第 1 回区民会議フォーラムは「循環型のまち・生ごみリサイクル」をテーマにして開催し、普及啓発に努めました。 （P22 ～ 24 第 1 回区民会議フォーラム参照）

⑤「生ごみからできた堆肥・肥料でつくった花や野菜の写真展」の開催

【実施概要】

募集期間 : 平成 23 年 7 月～ 9 月 9 日

展示期間 : 平成 23 年 9 月 12 日～ 25 日（最終日を第 1 回区民会議フォーラムに併せる）

展示場所 : 区役所ロビー

出 展 数 : 46 作品（A4 版 1 枚に約 2L サイズ大の写真を貼付し、コメントを記載）

【結果概要】

第２期区民会議で始まったこの写真展は、フォーラム会場での１日だけの展示でした。第３期はこれを 2 週間、区役所ロビーに展示する拡大開催に発展継続させました。

市政だよりでの広報が間に合わなかったためか、2 回目にしては出展数がさほど増えませんでしたが、ロビーでの展示は生ごみ堆肥の良さを伝えるのに有効でした。地道に継続開催することで、区民に浸透し広がっていくことを期待します。

⑥「生ごみリサイクルモデル事業」の実施

【目的】

前述アンケートでも生ごみリサイクルしてできた堆肥などを使いきれない方が多くいました。必要な所に橋渡しをして有効活用すれば、使い道がなくて始められない方への動機づけになり普及拡大が図れ、かつ地域での資源循環が推進されると考え、まずは、区民が自家処理して作った堆肥や乾燥生ごみを区役所で回収することにしました。

【経過】

（ア）先進取り組み自治体への聞き取り調査 （P52 資料 3−10 参照）

平成 23 年 10 月から「生ごみ処理機一次生成物回収について」電話での聞き取り調査を実施しました。（仙台市、小金井市、鎌倉市、八王子市、堆肥化協会など）

（イ）実施に向けての勉強会の開催

平成 23 年 11 月 8 日環境局減量推進課よりモデル事業の整合性、法的課題 (廃棄物処理法や肥料取締法) などについて説明やアドバイス等を受けました。（参加委員 6 名）

（ウ）モデル事業の計画書を環境局に提出 （P53 資料 3−11 参照）

平成 23 年 12 月環境局では計画書に基づき「はぐるま工房」との調整を行いました。

【実施概要】

実施日：平成 23 年 12 月～平成 24 年 3 月　計 4 回

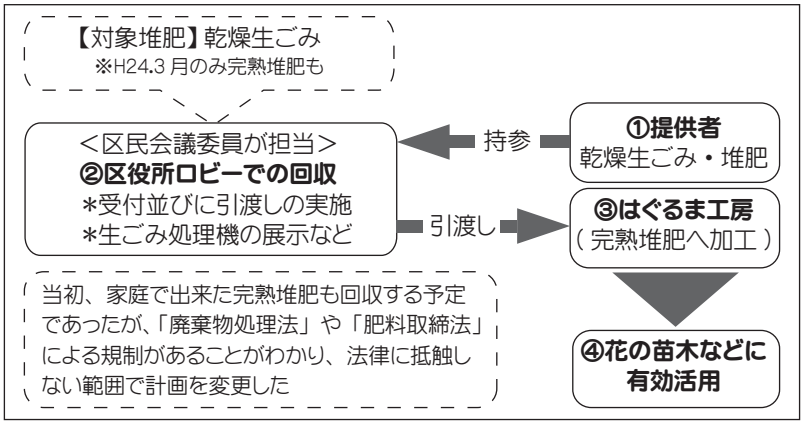
（*多摩生活環境事業所の「ごみ相談会」に併せ各月第 4 土曜日 9:00 ～ 11:00）

場　所：区役所 2 階ロビーにて

展示物：生ごみ処理機器、各種説明パネル、生ごみ投入中ダンボールコンポスト

（川崎市作成の生ごみリサイクル小冊子、ちらしなど配布）

【事業の流れ】



【結果概要】

法律の規制により、乾燥生ごみが主たる回収の対象になった結果、対象者が限定されたことや、節電の動きの中で電動処理機の使用を控えている方が多く、あまり回収できませんでした。一方、同時に実施した生ごみ処理機器の展示や生ごみ相談には関心を示してくれる方が多くいました。

(3) 提言

① 麻生区主催の「生ごみリサイクル講習会」を定期開催

モデル事業をして回収は少なかったものの、生ごみリサイクルへの関心の高さは窺えました。しかしロビーでは、詳しく失敗のないやり方やこつまでは説明しきれません。一方川崎市では、「生ごみリサイクル講習会」を年 2 回高津区において開催していますが、毎回すぐに定員になってしまいます。身近な麻生区で受講したい方が多くいます。そこで、川崎市の生ごみリサイクルリーダー派遣制度などを活用し、麻生区廃棄物減量指導員連絡協議会などとも連携して、麻生区が主催する講習会を定期開催することが必要です。

② 写真展の継続実施

第 2 期からの「生ごみからできた堆肥・肥料でつくった花や野菜の写真展」では、大きな成果は表れていませんが、継続実施することで区民の中に少しずつ浸透していくことが考えられます。募集方法や展示方法などを工夫し、継続して開催することが望まれます。

③ 区独自の広報を

「麻生区生ごみアンケート」結果から、「生ごみの減量・資源循環」への実践は、残念ながら区民の一般的な取り組みとはなっていませんでした。そのため、引き続き普及・啓発の取り組みを進める必要があります。また、先進取り組み自治体への調査をしてわかったことの 1 つに、「ごみを減量させたい」という強い意志と広報の工夫がありました。

ごみに関しては環境局を中心に川崎市全体で取り組まれていますが、各区の状況は異なります。身近な実践例紹介など麻生区独自で「ごみ減量特集」を作成し、市政だより 21 日版に折り込むなど、より効果的な広報活動の検討を始めてください。

④ 市民農園に優先枠

各家庭での生ごみ自家処理（堆肥化など）を進めるうえで、インセンティブとなるよう、市民農園に「自家製の生ごみ堆肥・肥料を使う方を優先する」枠を設けるなど、借用条件を麻生区独自で決められるよう、川崎市に働きかけてください。

⑤「仮・あさお広場（ﾌｧｰﾏｰｽﾞﾏｰｹｯﾄ）」の定期開催

「生ごみリサイクルモデル事業」実施に際し、関連法規上多くの制約があることが分かりました。このような活動を拡大する意味から、その運用の緩和策を講じる必要があり、作った堆肥を農産物と交換できるようなシステムが望まれます。

その 1 案として区役所前で市民と農家が直接繋がれるような場「仮・あさお広場（ﾌｧｰﾏｰｽﾞﾏｰｹｯﾄ）」を定期的に開催し、そこに各家庭で作った堆肥も持ちこめるようにします。そんな麻生区の特徴を生かした循環型のまちづくりを区全体で目指すことを提言とします。

4 環境・緑化部会 ／ グリーンアップ・里山ボランティア

(1) 背景

川崎市内の緑（農地・山林）の約 42% が麻生区に集積しており、貴重な資源になっています。その保全については、地域住民やボランティアを中心にした団体が緑の保全管理活動を行っていますが、そういう団体のない手付かずの緑地がまだ多く残っており、健全な緑地の育成のためには、更なる活動が必要な状況です。

また、平成 20 年度かわさき市民アンケートの結果などから、環境に関する活動に「現在参加している（13.7%）」「今後参加したい（45.2%）」とする方が区民の約 60% を占めており、7 区の中で一番高い割合を示していることがわかり、これなら緑地保全に市民ボランティアの力を活用できると確信しました。

そこで、区民と協働してこれまで手付かずだった緑地の保全活動を進め、区の特色である緑に対して親しみや愛着を持ってもらう機会にするとともに、活動に参加された方がつながりを持ち、新たな活動が展開されていくことを目指して取り組みを進めました。

(2) 検討経過

① 緑の保全活動に関する勉強会の開催

平成 23 年 2 月 17 日 （財）川崎市公園緑地協会より説明（参加委員 6 名）

- 川崎市の緑の現状を把握しました。川崎市は沢山の緑地を買い支えていますが、その緑地について管理団体のない所も多く、手入れが必要な状況でした。
- 同協会が実施する緑地保全活動や里山ボランティア講座の説明を受けました。また、「里山ボランティアの組織づくり」に向けて全面協力を得られることになりました。

② 活動参加とヒアリング調査の実施

平成 23 年 2 月 12 日　緑の団体（早野里山ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ）の活動に参加（参加委員 2 名）

- 既存活動団体の活動実施状況や区民会議の取り組みに対する意見を聞き、その結果第 3 期区民会議では活動団体のないところについて審議を進めることにしました。

③ モデル事業「里山ボランティア」の実施

【目的】

区内で緑地保全管理団体のない手付かずの緑地（市有地）を保全すること、また、固定した場所に縛られない管理活動の方法として数か月で数か所のボランティア活動を行い、新たな組織づくりを図ることを目的に里山ボランティアを募集して下草刈りなどを実施しました。

【活動経過】

（ア）里山研修会（（財）川崎市公園緑地協会主催）への参加

平成 23 年 6 月 26 日　高石特別緑地保全地区に（参加委員 5 名）

・作業内容や開催方法などを学び、終了後、モデル事業の実施に向けた候補地の下見。

＜注：協会と共催で第 1 回モデル事業とするはずでしたが、場所が民有地であることから研修会として区民会議委員のみの参加となりました。＞

（イ）候補地選定に向けた勉強会の開催

平成 23 年 7 月 15 日麻生区道路公園センターより説明（参加委員 7 名）

・麻生区の緑の現状や管理状況などについて学習しました。（P54 資料 3−12 参照）

・区内市有地で初心者でも安全に活動実施できる場所を考慮し、モデル事業実施候補地を 4 箇所（月読神社周辺、栗木緑地、栗木台 5 丁目周辺、高石 4 丁目周辺）選定しました。

（ウ）候補地の下見の実施と地元調整

平成 23 年 7 月 27 日　前述 4 か所の候補地下見を実施（参加委員 3 名）

・区民会議任期の関係から、月読神社周辺と栗木緑地を優先して実施することを決定しました。（選定条件：①特定の活動団体がない。②傾斜地が少なく初心者でも活動しやすい。③区民の方の利用があり、公共性が高い。）

・月読神社周辺実施に際し、下麻生自治会へ挨拶し隣接私有地の所有者へ事業説明を行いました。

・栗木緑地実施に際し、栗木町内会役員との打ち合わせを重ね、地元町内会の全面協力を得られることになりました。その後、緊急的必要性により道路公園センターで実施予定地の下草刈りを事前に行うことになり、本事業での実施は中止となりました。これにより数回連続で行うことを目的にしたモデル事業は 1 回のみとなりました。

【実施概要】

実 施 日：平成 23 年 12 月 10 日（土）午前 10 時～ 12 時 30 分　晴天

＊当初は 12 月 3 日に実施予定でしたが、雨天のため延期

実施場所：月読神社周辺の市有地（下麻生 1 丁目）

参 加 者：21 名（公募ボランティア 7 名、区民会議委員 6 名、森林インストラクター 2 名、（財）川崎市公園緑地協会 1 名、事務局ほか 5 名）

募集期間：平成 23 年 10 月～ 11 月 24 日

＊市政だより区版 11／1 号、区ホームページ、募集チラシ配布

作業内容：竹の剪定、枝払い、倒木の整理、廃棄物の撤去など

＊作業道具は参加者分（財）川崎市公園緑地協会より無料借用

麻生区区民会議モデル事業

里山ボランティアを募集します！

麻生区区民会議では、「**グリーンアップ・里山ボランティア**」を一つのテーマに、保全活動が行われていない緑地を保全する取り組みを進めています。
区内のあまり管理がされていない緑地（市有地）の下草刈りなどを行う**モデル事業**を実施するため、興味のある方、協力していただける方を募集します。
皆さん、奮って里山ボランティアにご応募ください。

■日　時：**１２月３日（土）１０時～１２時３０分**（雨天順延）
雨天の予備日：１２月１０日（土）　１０時～１２時３０分（雨天中止）

■実施場所：月読神社周辺
＊集合場所：月読神社（上麻生７－３８）

■募集人数：２０名（１８歳以上の方、初心者大歓迎！）

■参 加 費：無 料

■応募方法：氏名、住所、生年月日、電話番号などをご記入の上、FAX、E メールまたはハガキでお申し込みください。
＊応募者多数の場合は、抽選とさせて頂きます。

■応募締切日：１１月２４日（水）必着　（応募者全員に、結果と詳細をお知らせします。）

■当日のスケジュール例
１０：００～１０：１０　集合場所に集合（受付、資料配布）
１０：１０～１０：２５　開学（緑地に不入は不必要な理由、種の使い方など）
１０：２５～１０：３５　班ごとに体操、道具準備
１０：３５～１２：００　作 業
１２：００～１２：３０　道具の手入れ、質疑応答、アンケート記入、解散

■その他
＊持ち物：軍手、ナタ、鎌、熊手、虫よけなど
・**鋸、剪定ばさみは持参しません。**なお、電動機械は使用しません。
＊汚れても良い働きやすい服装、靴でお越しください。
＊駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

【参加者アンケート】

ほぼ全員の方が、「作業量はちょうどよかった、もっとやりたかった」「非常に楽しかった、まあまあ楽しかった」という意見で、「同じような催しがあったらまた参加したい、案内してほしい」という意欲的な感想もあり、森がきれいになった体験をみんなで共有できました。

【結果概要】

・2 時間半の保全活動でありながら、光を通すような森になり、成果が見て取れました。

- 参加者からは概ね好評が得られ、また参加したいという意見も多くありました。しかし、1 回のみのモデル事業実施となってしまった為、継続的に活動を希望する方には、(財) 川崎市公園緑地協会から各種事業案内が届くよう依頼し、参加者にはその旨報告の手紙を出しました。これにより新たな取り組みの広がりも期待できます。
- 今後、同様の取り組みを展開する場合、地元町内会、他の活動団体、行政などと連携を図りながら進めていく必要性は再確認できました。
- ボランティアの応募が、募集人数より下回ったことで、広報などに課題が残りました。今後実施するためには、より効果的な募集方法の検討が必要です。
- 今回のモデル事業は 1 回のみに終わり、新たな組織の立ち上げまで出来ませんでした。2 年間の審議過程を無駄にしないで継続発展させるべく、市民団体「麻生の緑を守る会」に引き継ぎ、「平成 24 年度麻生区地域課題解決型提案事業」に「麻生区里山ボランティア事業」として採択されました。今後の活動に期待します。

(3) 提言

麻生区の特長である自然環境【緑】（山林・農地）が、宅地開発などで年々減少を続けている事を踏まえ、区内に残された貴重な緑の資源を次世代へと引き継いでいく為の新しい取り組みが急がれます。その為に以下の 2 点を提言します。

① 地域に限定されない里山ボランティアの構築

地元住民が地元の緑を保全管理していく事への意識が定着し様々な保全管理団体が活躍しています。一方、川崎市が特別緑地指定したにもかかわらず、管理の行き届かない緑地が多くあり、これらを区民・関係機関・行政と協働して保全管理していくシステムづくりを実施し定着させていくことが必要です。そこで、地域に限定されない麻生区全体の緑を保全管理していく団体を立ち上げ、次の段階として地元住民へ管理を引き継いでいき保全管理団体も増やしていくようなシステムの構築が必要です。

これにより緑の保全活動を通じた新たなコミュニケーションの場が形成され、地域の絆づくりも深まり、より良い地域社会環境が期待できると思います。

② 「麻生区里山ボランティア」事業の推進

平成 24 年度麻生区地域課題解決型提案事業に「麻生区里山ボランティア」が取り上げられ、区民会議の調査審議を継続発展する新しい形となりました。これを定着発展させていくことが重要です。